

AccuBridge™ for Visual Studio® PE

ユーザーズ ガイド

Version 2011.2
June 2011

Copyright

Copyright © AccuRev, Inc. 1995–2011

ALL RIGHTS RESERVED

This product incorporates technology that may be covered by one or more of the following patents: U.S. Patent Numbers: 7,437,722; 7,614,038.

AccuRev, **AgileCycle**, and **TimeSafe** are registered trademarks of AccuRev, Inc.

AccuBridge, **AccuReplica**, **AccuSync**, **AccuWork**, and **StreamBrowser** are trademarks of AccuRev, Inc.

All other trade names, trademarks, and service marks used in this document are the property of their respective owners.

Copyright © AccuRev, Inc. 1995–2011

ALL RIGHTS RESERVED

本製品は、次の1つ以上の特許によって保護される可能性がある技術を含みます。
米国特許番号：7,437,722; 7,614,038。

AccuRev、**AgileCycle**、および**TimeSafe**はAccuRev, Inc.の登録商標です。

AccuBridge、**AccuReplica**、**AccuSync**、**AccuWork**、および**StreamBrowser**はAccuRev, Inc.の商標です。

その他、本書で使用されるすべての商号、商標、およびサービスマークは、それぞれの所有者に帰属します。

まえがき

このマニュアルは、AccuRev 社の AccuBridge for Visual Studio PE を使用するためのガイドです。AccuRev および Visual Studio ユーザーを対象としています。

AccuBridge™ for Visual Studio PE とは

AccuBridge for Visual Studio PE は、AccuRev と以下の Visual Studio 製品を統合します。

- Visual Studio 2005
- Visual Studio 2008
- Visual Studio 2010

AccuBridge for Visual Studio PE は、Express バージョンを除く上記のすべての Visual Studio 製品をサポートします。

AccuBridge for Visual Studio PE は、Microsoft Common Source Code Control Interface (MCSCCI) を使用するのではなく、Visual Studio Package Technology (VSPT) に含まれる SCC プロバイダー インターフェイスを実装しています。これにより、AccuRev 固有のソフトウェア構成管理機能とより緊密に統合できます。

このドキュメントの使用

このドキュメントは、読者が OS および OS コマンド、AccuRev、AccuWork、および Visual Studio PE に関する知識があることを前提としています。

このドキュメントの以降の章では、AccuBridge for Visual Studio PE のインストール方法を説明し、また AccuBridge for Visual Studio PE の現在のバージョンおよび最近のバージョンの情報を提供します。

章	説明
1 章 はじめに	AccuBridge for Visual Studio PE の概要を紹介します。
2 章 基本操作	AccuBridge for Visual Studio PE の準備と使用について説明します。
3 章 AccuRev 固有のウィンドウ	Visual Studio のインターフェイス内で AccuBridge for Visual Studio PE のウィンドウを使用する方法を説明します。
4 章 AccuRev コマンド リファレンス	AccuRev コマンドおよびどこえコマンドを実行できるかについてのリファレンスです。
付録 A AccuRev の使用モデル	AccuRev SCM のコンセプトおよび用語の概要です。

表記上の規則

このドキュメントは次の表記上の規則を使用します。

書体	説明
青 sanserif	サンプル コードまたは出力に使用。
red monospace	例に使用。
青	Web ページや Web URL などのハイパーリンクを表すために使用。

テクニカル サポート

日本語リリース版のサポートサイトについてはこちらをご参照ください。

<http://www.techmatrix.co.jp/quality/accurev/support.html>

また、サポートの問い合わせについてはテクマトリックスの AccuRev 製品テクニカル サポート センター (accurev_support@techmatrix.co.jp) まで電子メールでご連絡ください。

注意：これ以降の情報はすべて AccuRev 社（英語）のものです。

AccuRev 社はテクニカル サポートのニーズに応えるためにさまざまな方法を用意しています。AccuRev サポート サービスの完全な情報については、AccuRev 社の Web サイトを参照してください。

<http://www.accurev.com/support.html>

ライセンスの問題

AccuRev 製品のライセンスに関する問題については、問題の解決方法がないかどうか License Self Help ページをまず参照してください。

<http://www.accurev.com/support/license-self-help.html>

その他のサポートの問題

AccuRev 製品のテクニカル サポートを受けるには：

- <http://support.accurev.com/> にアクセスしてください。
- AccuRev テクニカル サポート (support@accurev.com) まで電子メールでご連絡ください。

注意：このメールアドレスは AccuRev 社のものですので、お問い合わせの際はテクマトリックスまでご連絡ください。

AccuRev テクニカル サポートにご連絡の際は、次の情報をお知らせください。

- AccuRev のバージョン
- 使用 OS
- AccuBridge 製品を使用している場合：

- AccuBridge のバージョン
- AccuBridge が使用するシステムのバージョン (例えば JIRA や Rally)
- 問題についての簡単な説明。使用した AccuRev インターフェイス (Web UI、Java GUI、CLI)、エラー メッセージ、エラー発生時に行っていた操作、問題が再現可能かどうかなどの情報を必ず含めてください。
- 「**その他のリソース**」のリソースの使用を含め、問題解決のために試したことについての説明。
- 問題がどのように開発チームに影響するかについての簡単な評価。

その他のリソース

AccuRev 製品テクニカル サポートへのお問い合わせに加えて、次のリソースの利用も検討してください。

- AccuRev の既知の問題と解決方法 – <http://www.accurev.com/support/kps.html>
リリースされた AccuRev 製品の既知の問題について説明しています。
- AccuRev ユーザー フォーラム – <http://www.accurev.com/ubbthreads/>
AccuRev ユーザー フォーラムは価値あるリソースです。AccuRev の国際的なユーザー コミュニティに加えて、次のようなリソースにもアクセスできます。
 - AccuRev ナレッジ ベース
 - AccuRev FAQユーザー フォーラム メンバーに今すぐご登録ください。
- AccuRev のドキュメント – <http://www.accurev.com/documentation.html>
ほとんどの AccuRev 製品の現在と過去の全リリースについて、そのドキュメントを参照できます。

目次

まえがき	iii
AccuBridge™ for Visual Studio PE とは.....	iii
このドキュメントの使用.....	iii
表記上の規則.....	iv
テクニカル サポート.....	iv
ライセンスの問題.....	iv
その他のサポートの問題.....	iv
その他のリソース.....	v
はじめに	1
Visual Studio インターフェイスに対する変更.....	1
AccuRev ツールバー.....	1
AccuRev メニュー.....	2
AccuRev ステータス インジケータ.....	3
基本操作	4
ユーザーの認証.....	4
AccuRev ソース管理の確立.....	4
既存のプロジェクトをソース管理対象にする.....	5
新規プロジェクトをソース管理対象にする.....	5
AccuRev ワークスペースの作成.....	5
ワークスペースへの新規プロジェクトの追加.....	6
AccuRev オプションの設定.....	7
Diff/ マージ オプション.....	8
全般オプション.....	9
AccuRev 固有のウィンドウ	11
AccuRev ウィンドウ.....	11
検索タブ.....	11
履歴タブ.....	13
同期タブ.....	14
出カウィンドウの AccuRev ペイン.....	16
AccuRev コマンド リファレンス	18
ファイルおよびディレクトリを操作するコマンド.....	19
デポに追加.....	19
キーブ.....	19
アンカー.....	20
プロモート.....	20
マージ.....	21
履歴.....	23
ソリューション エクスプローラーで場所を開く.....	23
ファイルを開く.....	23

ポピュレート	24
アノテート	24
デファンクト	25
最新のバージョンに戻す	25
Backed バージョンに戻す	25
最新のバージョンと Diff	26
Backed バージョンと Diff	26
親バージョンと Diff	26
ディスクのファイルと Diff	26
ヒストリー タブで利用できるコマンド	26
ワークスペースと Diff	26
バージョンと Diff	26
バージョンのチェックアウト	26
トランザクションの表示	27
AccuRev メニューから実行できるコマンド	28
更新	28
更新プレビュー	28
ログイン	28
ワークスペースの作成	28
時間の同期	28
ワークスペース情報	28
リフレッシュ	29
AccuRev コマンドの自動呼び出し	29
名前の変更	29
削除	29
要素の移動	30
AccuRev の使用モデル	31
ワークスペースとストリーム	31
AccuRev 要素のステータス	32

はじめに

AccuBridge for Visual Studio PE は、AccuRev のソース管理機能と Visual Studio 2005、2008、および 2010 を統合するパッケージです。AccuBridge for Visual Studio PE を利用すると Visual Studio から AccuRev コマンドを実行できるようになります。

このドキュメントは、AccuBridge for Visual Studio PE の使用方法を説明します。システム要件、インストール / 更新の手順、およびリリースノートについては、『AccuBridge for Visual Studio PE インストール ガイド & リリースノート』を参照してください。

AccuRev ソース管理システムに関する簡単な説明については、31 ページの「[AccuRev の使用モデル](#)」を参照してください。本製品のニュースについては <http://www.accurev-techmatrix.jp/> を参照してください。

Visual Studio インターフェイスに対する変更

AccuBridge for Visual Studio PE は、Visual Studio のユーザー インターフェイスにいくつかの拡張を加えます。

- AccuRev ツールバー
- Visual Studio メイン メニューの **[AccuRev]** サブメニュー ([ファイル] メニューの **[AccuRev]** から実行できます)
- ソリューション エクスプローラーのコンテキスト メニューの **[AccuRev]** サブメニュー
- Visual Studio エディターのコンテキスト メニュー (ソース ファイルまたはテキスト ファイル編集時に表示される) の **[AccuRev]** サブメニュー
- ソリューション エクスプローラーの AccuRev ステータス インジケータおよびツールチップ
- AccuRev ウィンドウとヒストリー、検索、同期タブ
- Visual Studio の出力ウィンドウの AccuRev ペイン

AccuRev ツールバー

AccuBridge for Visual Studio PE には AccuRev ツールバーがあります。**[表示]** メニューの **[ツールバー]** > **[AccuRev]** をクリックすると、このツールバーを表示できます。



ボタンの追加または削除

ソリューション エクスプローラーで現在選択されているアイテムに適用できないコマンドのボタンは無効化されています。ツールバーの端にある [ツールバー オプション] コントロール (下向きの矢印) をクリックすると、ボタンを追加または削除できます。

AccuRev ツールバーには、以下の AccuRev コマンドのボタンがあります。

デポに追加	最新のバージョンに戻す
キープ	Backed バージョンに戻す
アンカー	最新のバージョンと Diff
プロモート	Backed バージョンと Diff
マージ	親バージョンと Diff
ヒストリー	ディスクのファイルと Diff
アノテート	
ポピュレート	
ワークスペース情報	

AccuRev メニュー

AccuBridge for Visual Studio PE をインストールすると、Visual Studio のメインメニューに [AccuRev] サブメニューが追加されます。このメニューは [ファイル] メニューの [AccuRev] をクリックすることでも実行できます。このメニューには、特定のファイルの選択に左右されない「グローバルな」AccuRev コマンドがあります。

[AccuRev] サブメニューには以下のコマンドがあります。

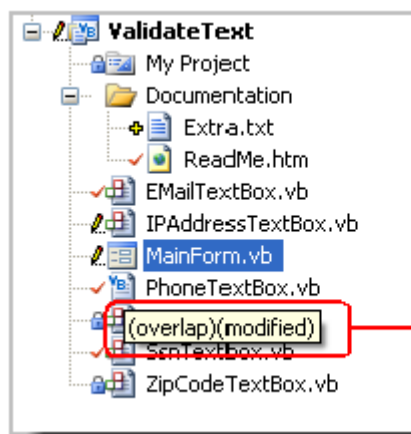
更新
更新プレビュー
ログイン
ワークスペースの作成
時間の同期
ワークスペース情報
リフレッシュ



無効化されているコマンドがある場合、AccuRev サーバーにログインしていないか、ソリューションが AccuRev ワークスペースに含まれていません。ログイン コマンドが失敗する場合、AccuRev Server プロセスへの接続を確認してください。

AccuRev ステータス インジケータ

ユーザーが自分の AccuRev ワークスペースにあるプロジェクトで作業している場合、AccuBridge for Visual Studio PE はソリューション エクスプローラーの各アイテムに AccuRev ステータスに応じたアイコン装飾を表示します。AccuRev 要素は複数のステータス インジケータを持つ場合があります。アイテムのアイコンにカーソルを置くと、ツールチップにすべての AccuRev ステータス インジケータが表示されます。



ツールチップに
選択された
ファイルの
完全な AccuRev
ステータスが
表示される

プロジェクトがユーザーの AccuRev ワークスペース内がない場合、アイコン装飾は表示されず、アイテムのアイコンにカーソルを置くと、ツールチップに「ワークスペースに存在しない」と表示されます。

次の表は、アイコン装飾のルールを表します。

アイコン装飾	AccuRev ステータス
 青色の鍵	(backed)
 黄色の鉛筆	(modified)
 赤色のチェック	(kept)、(missing) または (member)
 黄色の十字	(external)
なし	AccuRev ユーザーがログインしていない、またはワークスペースにアイテムがない

ディレクトリ (フォルダー) にはアイコン装飾が表示されません。プロジェクトおよびソリューションには、プロジェクト ファイルまたはソリューション ファイルのステータスを表すアイコン装飾が表示されます。

基本操作

この章では、AccuBridge for Visual Studio PE を起動して実行するための基本的な操作について説明します。

ユーザーの認証

すべての AccuRev コマンドは AccuRev ユーザーによって実行されなければなりません。AccuBridge for Visual Studio PE を使い始める前に AccuRev のユーザー認証を行う必要があります。AccuRev には次の 2 種類のユーザー認証方法があります。

- トラディショナル認証モードでは、AccuBridge for Visual Studio PE はデフォルトで OS のユーザー名を AccuRev ユーザー名として使用し、認証情報、ユーザー設定およびその他の情報をユーザーのホーム ディレクトリの **.accurev** ディレクトリに保存します。

デフォルトの動作をカスタマイズするには、次の 2 つのユーザーレベルの (システムレベルではない) 環境変数を設定してから Visual Studio を起動します。

- 別のユーザー名を使用するには、ACCUREV_PRINCIPAL 環境変数にユーザー名を設定します。
- 別の場所に **.accurev** ディレクトリを作成するには、ACCUREV_HOME 環境変数に場所を指定します。
- `accurev_login` 認証モードでは、AccuRev Server に明示的にログインする必要があります。ログインするには、Visual Studio の [ファイル] メニューの [AccuRev] > [ログイン] をクリックします。

AccuRev のユーザー管理については、『AccuRev 管理者ガイド』を参照してください。

AccuRev ソース管理の確立

AccuBridge for Visual Studio PE でコマンドを実行すると、中央のソースコード リポジトリ (デポ) と個人の AccuRev 作業エリア (ワークスペース) の間でデータがやり取りされます。Visual Studio プロジェクトを AccuRev でソース管理するには、プロジェクトがワークスペース内になければなりません。また、**デポに追加** コマンドでプロジェクト ファイルを明示的にソース管理に追加する必要があります。

古いバージョンの AccuBridge for Visual Studio PE を使用している場合、新しいバージョンをインストールすると、すでに AccuRev のソース管理下にある既存の Visual Studio プロジェクトまたはソリューションは、自動的に新しいバージョンを使用するようになります。以下のセクションでは、新規または既存のプロジェクトに対して AccuRev によるソース管理を開始する方法を説明します。手順では、必要なデポおよびストリームはすでに作成され、適切に構成されているものとします。

既存のプロジェクトをソース管理対象にする

方法 1:

1. **AccuRev ワークスペースの作成** の手順に従ってプロジェクトの場所に新規ワークスペースを作成します。新規ワークスペースの名前は Visual Studio のプロジェクト名と同じでなければなりません。ワークスペースの場所はプロジェクト ファイルの場所でなければなりません。
2. [ファイル] メニューの [AccuRev] > [リフレッシュ] をクリックします。
3. ソリューション エクスプローラーでソリューション名を右クリックし、[AccuRev] > [デポに追加] をクリックします。

方法 2:

1. Visual Studio を終了します。
2. 既存の AccuRev ワークスペースにプロジェクト フォルダーを移動します。
3. Visual Studio を起動します。
4. 新しい場所からプロジェクトをロードします。
5. ソリューション エクスプローラーでソリューション名を右クリックし、[AccuRev] > [デポに追加] をクリックします。

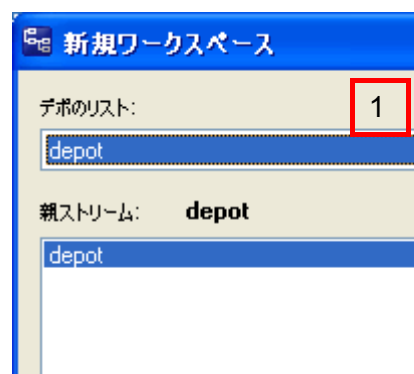
新規プロジェクトをソース管理対象にする

1. (任意) **AccuRev ワークスペースの作成** の手順に従って新規ワークスペースを作成します。
2. **ワークスペースへの新規プロジェクトの追加** の手順に従ってワークスペースに新規プロジェクトを作成します。

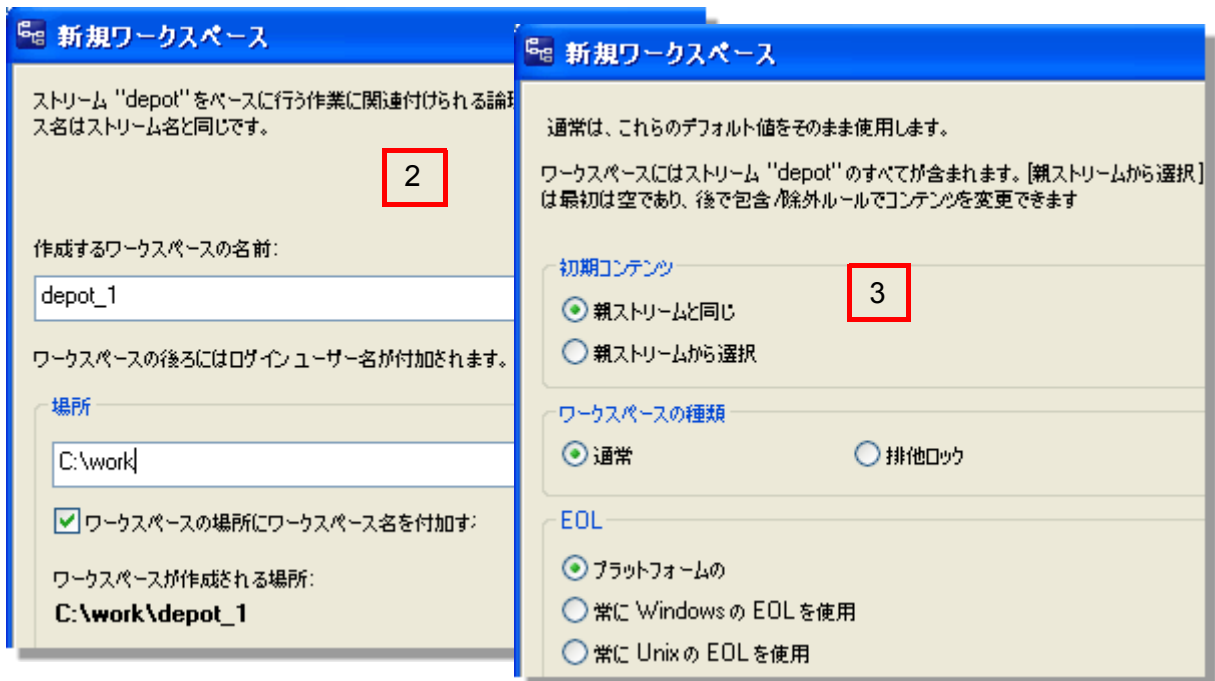
AccuRev ワークスペースの作成

[ファイル] メニューの [AccuRev] > [ワークスペースの作成] をクリックしてウィザードを開始します。

1. [New Workspace] ワークスペースが表示されたら、ワークスペースのデポと親ストリームを選択し、[次へ] をクリックします。
2. ワークスペースの名前と場所を指定し、[次へ] をクリックします。場所はローカル ハード ドライブでも、ネットワーク ドライブでもかまいません。

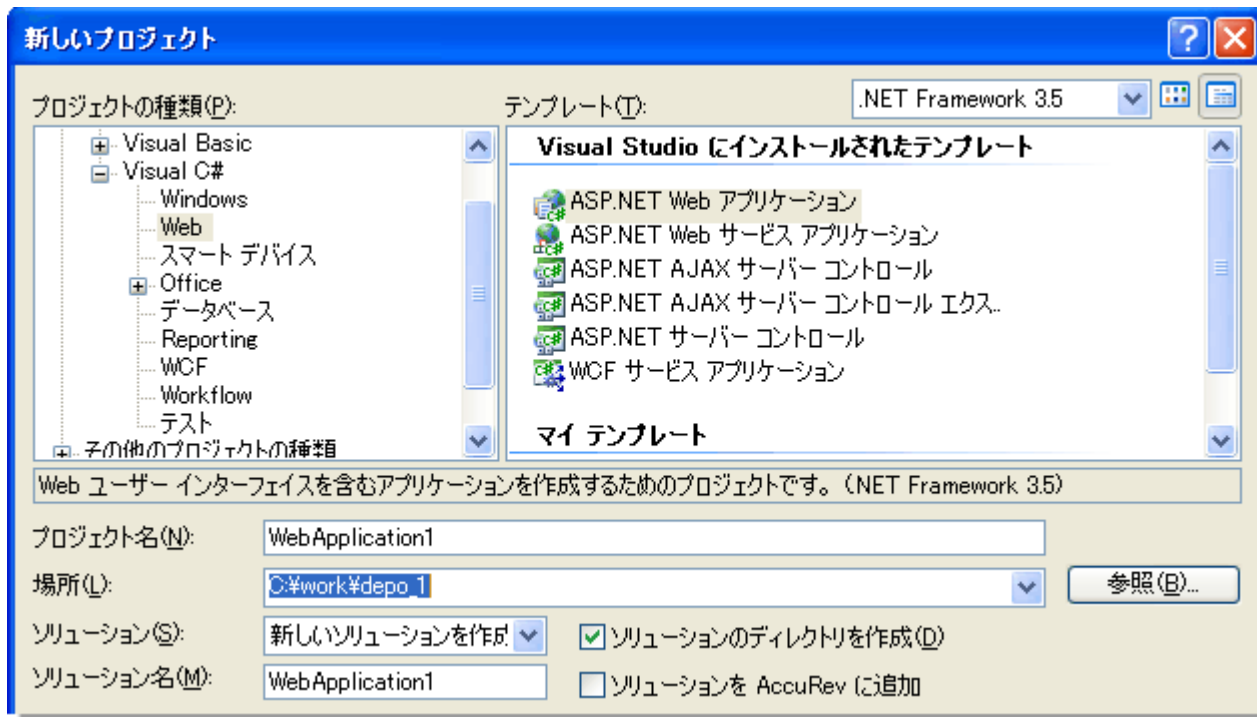


- ワークスペースのオプション (内容、タイプ、改行コード (EOL) 文字) を指定し、[完了] をクリックしてワークスペースを作成します。



ワークスペースへの新規プロジェクトの追加

Visual Studio でワークスペース内のディレクトリにプロジェクトを作成します。



プロジェクト作成時に **[Add Solution to AccuRev]** チェックボックスがオンの場合、AccuBridge for Visual Studio PE は **デポに追加** コマンドを実行してプロジェクトのすべてのコンテンツをデポに追加します。

Visual Studio プロジェクトは、AccuRev ワークスペースの全体であっても、一部であってもかまいません。ワークスペース全体を 1 つのプロジェクトにするには、**[場所]** フィールドにワークスペースのルート ディレクトリのパス名を入力します。ワークスペースのサブツリーをプロジェクトにするには、**[場所]** フィールドにワークスペースのルート ディレクトリより下のディレクトリのパス名を入力します。

プロジェクト名(N): WebApplication1
場所(L): C:\work\depo_1
ソリューション(S): 新しいソリューションを作成 ソリューションのディレクトリを作成(D)
ソリューション名(M): WebApplication1 ソリューションを AccuRev に追加

AccuRev オプションの設定

[ツール] メニューの **[オプション]** をクリックすると、[オプション] ダイアログが開きます。オプション タイプのツリーで **[Source Control] > [AccuRev Options Page]** を選択します (ページがツリーに表示されていない場合、ダイアログ下部の **[Show all settings]** チェックボックスをオンにします)。AccuRev の全般的なオプションのほか、Diff/ マージ機能の設定を指定できます。

オプション

プロジェクトおよびソリューション
環境
Source Control
 プラグインの選択
 AccuRev Options Page
テキスト エディタ
HTML デザイン
Office ツール
Windows フォーム デザイン
データベース ツール
テキスト テンプレート
テスト ツール
デバイス ツール
デバッグ
ワークフロー デザイン

全般オプション | Diff/マージ オプション | WebUI

Diff ツール: AccuRev
マージ ツール(M): AccuRev

空白を無視する
 空白の違いを無視する
 大文字/小文字を区別しない

OK

Diff/ マージ オプション

Diff/ マージ オプションを使用すると、AccuBridge for Visual Studio PE が使用するテキスト比較およびマージ ツールを選択できるほか、AccuRev ツールを使用しているときに特定の文字を処理する方法を指定できます。

[Diff ツール] フィールドおよび [マージ ツール] フィールドに値を指定する際、いくつかの選択肢があります。

- AccuRev 独自のツールを使用する — デフォルトの設定は「AccuRev」であり、AccuRev 製品の一部であるグラフィカルな diff およびマージ ツールを使用します。
- ドロップダウン リストから別の値を選択する — 値の変更は AccuBridge for Visual Studio PE でだけ有効です。AccuRev GUI には影響しません (AccuRev GUI でもサードパーティ製の Diff およびマージ ツールを使用できます)。
- Diff またはマージ コマンドを呼び出したときに実行されるコマンドラインを指定します — このコマンド ラインには比較またはマージ ツールのテキスト ファイル名と、比較対象のファイルを表す一連の置換パターンが含まれている必要があります。ツールは検索パスに含まれるディレクトリに存在するか、絶対パスで指定する必要があります。

注意：これらのパターンは、Windows のバッチ ファイルの変数のように見えますが、実際は違います。AccuBridge for Visual Studio PE によって置換される単なるプレースホルダーです。

Diff 置換パターン

- %1% コマンドライン実行時に比較対象の最初のバージョンの引用符で囲まれたパス名に置換されます。
- %2% 比較対象の 2 番目のバージョンの引用符で囲まれたパス名に置換されます。
- %3% 比較対象の最初のバージョンの (引用符で囲まれていない) 表示可能なタイトル文字列に置換されます。
- %4% 比較対象の 2 番目のバージョンの (引用符で囲まれていない) 表示可能なタイトル文字列に置換されます。

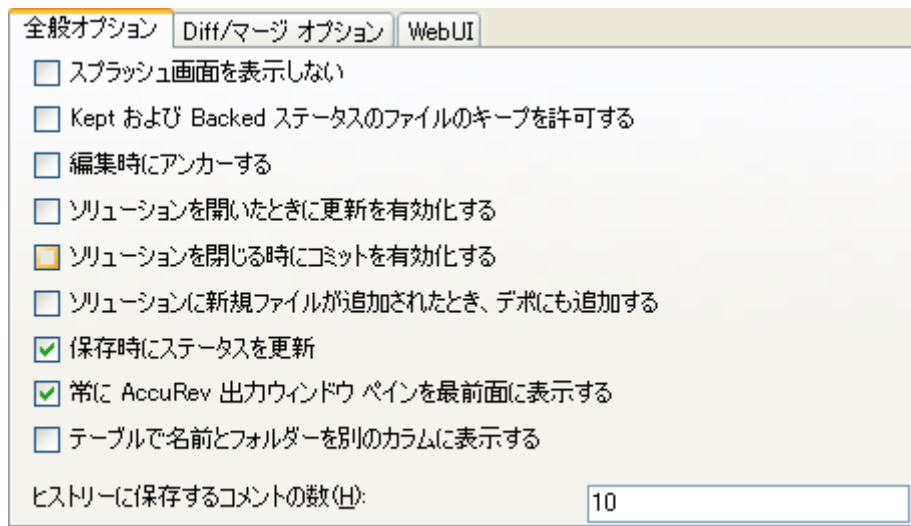
マージ置換パターン

- %a% コマンドライン実行時に直近の共通先祖バージョンの引用符で囲まれたパス名に置換されます。
- %1% ワークスペース以外のバージョンの引用符で囲まれたパス名に置換されます。
- %2% ワークスペースのバージョンの引用符で囲まれたパス名に置換されます。
- %3% 直近の共通先祖バージョンの (引用符で囲まれていない) 表示可能なタイトル文字列に置換されます。
- %4% ワークスペース以外のバージョンの (引用符で囲まれていない) 表示可能なタイトル文字列に置換されます。
- %5% ワークスペースのバージョンの (引用符で囲まれていない) 表示可能なタイトル文字列に置換されます。
- %o% マージ結果を格納する一時ファイルの引用符で囲まれたパス名に置換されます。

以下の 3 つのオプションは、AccuRev のグラフィカルな Diff およびマージ ツールにだけ適用されます。他のテキスト ファイル比較またはマージ ツールが選択されている場合、これらの設定は無視されます。

- **空白を無視する** — テキスト行の比較時に空白を考慮するかどうかを指定します。[**空白の違いを無視する**] オプションより優先されます。
- **空白の違いを無視する** — テキスト行中の空白の数の違いを違いとして認識するかどうかを指定します。
- **大文字 / 小文字を区別しない** — テキスト行比較時に大文字 / 小文字の違いを違いとして認識するかどうかを指定します。

全般オプション



- **スプラッシュ画面を表示しない** — Visual Studio 起動時に AccuBridge for Visual Studio PE のスプラッシュ画面を表示するかどうかを指定します。スプラッシュ画面には、表示を抑制するチェックボックスがあります。スプラッシュ画面を非表示にした場合、このオプションを使用して再表示できます。
- **Kept および Backed ステータスのファイルのキープを許可する** — **キープ** コマンドを実行したときに、ステータスが (**kept**) および (**backed**) のファイルをキープ ダイアログに表示するかどうかを指定します。
- **編集時にアンカーする** — アンカーが必要なワークスペースまたは排他ファイル ロックワークスペースでファイル要素の編集を開始したとき、自動的に**アンカー** コマンドを実行します。オプションがオフの場合、[**ファイル**] メニューの [**保存**] をクリックしたときに**アンカー** コマンドが実行されます。
- **ソリューションを開いたときに更新を有効化する** — Visual Studio ソリューションを開いたとき、自動的に**更新** コマンドを (AccuRev ウィンドウの同期タブから) 実行します。
- **ソリューションを閉じる時にコミットを有効化する** — Visual Studio ソリューションを閉じたとき、自動的に**コミット** コマンドを実行します。
- **ソリューションに新規ファイルが追加されたとき、デポにも追加する** — Visual Studio プロジェクトに新規オブジェクトを追加したとき ([**追加**] > [**新しい項目**]、[**追加**] > [**既存の項目**]、または [**追加**] > [**新しいソリューション フォルダー**])、自動的に AccuRev の**追加** コマンドを実行します。

- **保存時にステータスを更新** — Visual Studio の [ファイル] メニューの [Save] でファイルを保存するたびに自動的に AccuRev Server を呼び出します。これにより、保存されたファイルの AccuRev ステータスが確定し、アイコンの装飾が変化します。

このオプションは、デフォルトの設定ではオンです。オプションをオフにすると、AccuRev Server への呼び出しが減り、パフォーマンスが向上します。オプションがオフの場合に保存されたファイルのアイコン装飾を正しく表示するには、[AccuRev] メニューの [リフレッシュ] を実行します。

- **Display of element name in tables** — AccuRev ウィンドウの検索または同期タブのテーブルで要素のデポ相対パス名を表示する方法を指定します。
 - **single column** — パス名全体を [Name] という名前の 1 つのカラムに表示します。
 - **separate name and in-folder columns** — パス名を 2 つのカラムに分割します。
[Name] カラムには「リーフ」名が表示され、[In Folder] カラムに要素へのフォルダー/ディレクトリパス名が表示されます。
- **履歴に保存するコメントの数** — **デポに追加**、**キープ**、および **プロモート** コマンドを実行したときに表示されるダイアログの [Select Previous Comment] ドロップダウンリストに表示される選択肢の数を指定します。

AccuRev 固有のウィンドウ

この章では、Visual Studio インターフェイス内で AccuBridge for Visual Studio PE のウィンドウを使用する方法を説明します。

- [AccuRev] ウィンドウにはいくつかのタブがあり、AccuRev コマンドを実行したり、結果を参照したりできます。
- Visual Studio の標準出力ウィンドウに [AccuRev] ペインが表示されます。

AccuRev ウィンドウ

AccuBridge for Visual Studio PE には [AccuRev] ウィンドウがあり、AccuRev コマンドを呼び出したり、結果を参照したりできます。このウィンドウを表示するには、[表示] メニューの **[AccuRev ウィンドウ]** をクリックします。また、ソリューション エクスプローラーで AccuRev の **ヒストリー** コマンドを実行すると、自動的にこのウィンドウが表示されます。

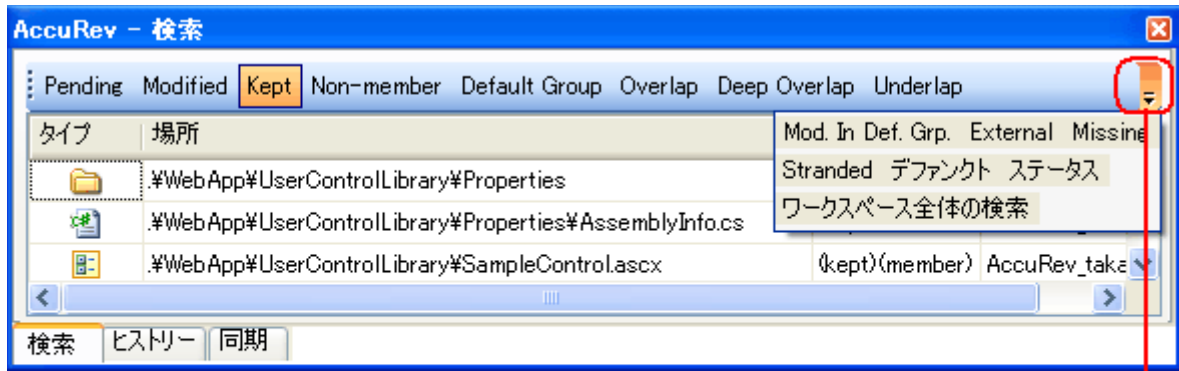
ソリューションが開かれている間は、AccuRev を閉じたり開いたりしても、情報は失われません。

AccuRev ウィンドウには **検索タブ**、**ヒストリー タブ**、および **同期タブ** という 3 つのタブがあります。各タブにはテーブルがあり、以下の標準的な方法で操作できます。

- カラムのヘッダーをクリックすると、該当カラムの値に基づいて行がソートされます。もう一度クリックするとソート順が逆になり、三角形でソートの方向が示されます。
- カラムのヘッダーを左右にドラッグすると、カラムの順序を変更できます。
- カラムの区切りをドラッグすると、カラムの幅を変更できます。

検索タブ

検索タブを使用すると、AccuRev ステータスに基づいてアイテムを検索し、検索結果のアイテムに対してコマンドを実行できます。



AccuRev ウィンドウの幅が足りず、すべての検索条件が表示されていない場合、ドロップダウン リストを使用して他の検索条件を表示します

検索を実行するには、検索タブのツールバーのボタンをクリックします。検索条件を満たすアイテムがテーブルに表示されます。テーブルには以下のカラムがあります。

- **タイプ** — Visual Studio のファイル タイプ
- **ステータス** — AccuRev のステータス インジケーター
- **場所** — ワークスペース内での位置
- **バージョン** — AccuRev のバージョン ID
- **Overlap Stream** — オーバーラップしているバージョンがある AccuRev ストリーム

このほか、検索タブのツールバーには、以下のボタンがあります。

- **[ステータス]** ボタンをクリックすると、ワークスペース内のすべてのアイテムのステータスが表示されます。
- **[ワークスペース全体の検索]** ボタンをクリックすると、検索のスコープが切り替わります。スイッチがオンの場合 (ハイライト表示されている場合)、結果テーブルには現在のソリューション内にあるプロジェクトを含むすべてのワークスペースから一致するアイテムが表示されます。スイッチがオフの場合 (ハイライト表示されていない場合)、現在のソリューション内で一致するアイテムだけが表示されます。

検索結果の更新

ボタンをクリックすると、検索が再度実行されます。検索タブに検索結果が表示されている状態で、Visual Studio 内で (たとえばファイルを編集するなどして) 要素のステータスを変更すると、結果テーブルは自動的に更新されます。

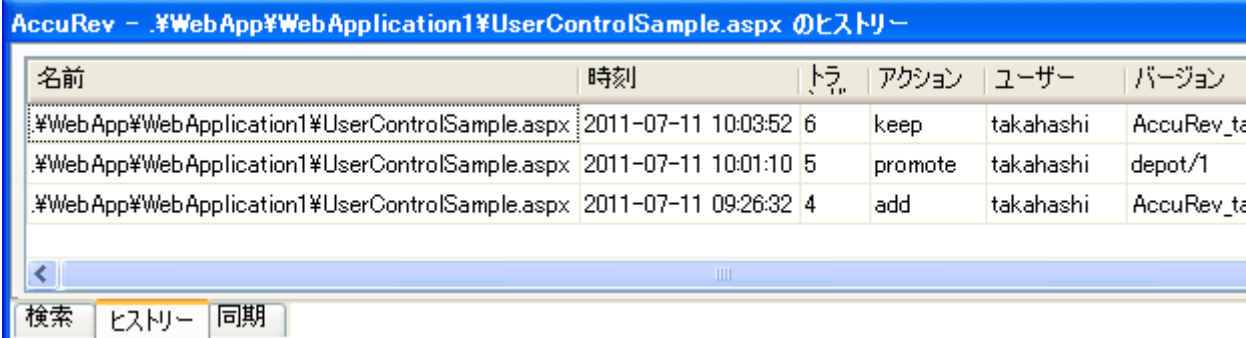
AccuRev コマンドの呼び出し

検索タブから AccuRev コマンドを呼び出すことができます。1 つ以上のアイテムを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。選択されたアイテムの少なくとも 1 つに適用できるコマンドだけが有効になっています。検索タブでは、ソリューション エクスプローラーから実行できるコマンドに加えて、**デフォルト** および **ソリューション エクスプローラー**

で場所を開く コマンドを実行できます。AccuRev コマンドの詳細については 18 ページの「AccuRev コマンド リファレンス」を参照してください。

ヒストリー タブ

ヒストリー タブには、**ヒストリー** コマンドの結果がテーブル形式で表示されます。各行は、要素のバージョンを作成した AccuRev トランザクションを表します。



The screenshot shows a web browser window with a blue header bar containing the text "AccuRev - ¥WebApp¥WebApplication1¥UserControlSample.aspx のヒストリー". Below the header is a table with the following columns: 名前, 時刻, トラ, アクション, ユーザー, and バージョン. The table contains three rows of data. Below the table is a search bar with a left arrow and a right arrow, and three buttons: 検索, ヒストリー, and 同期.

名前	時刻	トラ	アクション	ユーザー	バージョン
¥WebApp¥WebApplication1¥UserControlSample.aspx	2011-07-11 10:03:52	6	keep	takahashi	AccuRev_ta
¥WebApp¥WebApplication1¥UserControlSample.aspx	2011-07-11 10:01:10	5	promote	takahashi	depot/1
¥WebApp¥WebApplication1¥UserControlSample.aspx	2011-07-11 09:26:32	4	add	takahashi	AccuRev_ta

テーブルには以下のカラムがあります。

- **名前** — ワークスペース内での要素のパス名
- **時刻** — トランザクションが発生した日時を表すタイムスタンプ
- **トランザクション** — トランザクションの (AccuRev デポ内で) 一意の番号
- **アクション** — AccuRev トランザクションの種類。 **keep**、 **promote** などがあります。
- **ユーザー** — トランザクションを実行したユーザーの AccuRev ユーザー名
- **バージョン** — 該当トランザクションで作成された要素バージョンの一意のバージョン番号
- **コメント** — トランザクションにユーザーが入力したコメント

AccuRev コマンドの呼び出し

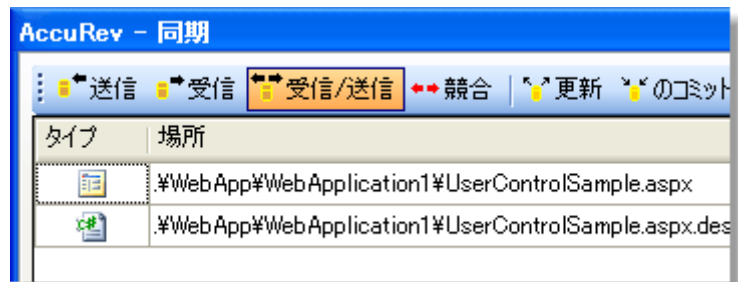
アイテムのヒストリーから 1 つまたは 2 つのトランザクションを選択し、コンテキストメニューから AccuRev コマンドを呼び出すことができます。

- **ワークスペースと Diff** — 選択されたトランザクションに含まれるバージョンを現在プロジェクトにあるバージョンと比較します。
- **バージョンと Diff** — 選択された 2 つのトランザクションで作成されたバージョンを比較します。
- **バージョンのチェックアウト** — ワークスペースのバージョンを選択されたトランザクションに含まれるバージョンと置換します。
- **トランザクションの表示** — 別の (トランザクション履歴) ウィンドウを開いて選択されたトランザクションの完全な内容を表示します。

同期タブ

同期タブはファイル単位のリストであり、「自分のプロジェクトとリポジトリとの現在の差異は何か？」という質問に答えます。

同期タブのツールバーのボタンは、プロジェクトファイルと AccuRev リポジトリの親ストリームバージョンがどのように異なっているかによってファイルをフィルタリングします。



受信

要素はリポジトリで変更されていますが、プロジェクトでは変更されていません。このフィルターを適用すると、AccuRev ステータスが **(stale)**、**(overlap)**、**(underlap)**、または **(missing)** のオブジェクトが選択されます。

送信

要素はプロジェクトで変更されていますが、リポジトリでは変更されていません。このフィルターを適用すると、AccuRev ステータスが **(modified)**、**(kept)**、**(member)**、**(external)**、**(overlap)**、**(underlap)** または **(missing)** のオブジェクトが選択されます。

注意：AccuRev の **アンカー** コマンドは、ファイルの AccuRev ステータスを **(member)** に変更しますが、ファイルの内容は変わりません。同期タブでは、このようなファイルはプロジェクトとリポジトリのファイルの内容に差異がなくても **送信** に分類されます。

受信 / 送信

受信と送信の両方のカテゴリの要素が表示されます。

競合

プロジェクトとリポジトリの両方で変更されている要素を表示します。このフィルターを適用すると、AccuRev ステータスが **(overlap)** または **(underlap)** のオブジェクトが選択されます。

残り 2 つのボタンは、同期タブの要素の表示方法を制御します。

 リフレッシュ ワークスペース全体の同期

リフレッシュ

プロジェクト内のすべてのファイルの AccuRev ステータスを取得し、表示を更新します。

ワークスペース全体の同期

同期タブのスコープを切り替えます。スイッチがオンの場合 (ハイライト表示されている場合)、タブには現在のソリューションを含むワークスペース全体からアイテムが表示されます。ソリューションに複数のワークスペースに含まれる複数のプロジェクトがある場合は、すべてのワークスペースからアイテムが表示されます。

スイッチがオフの場合 (ハイライト表示されていない場合)、現在のソリューション内のアイテムだけが表示されます。

AccuRev コマンドを呼び出してプロジェクトをリポジトリと同期する

同期タブのツールバーには 2 つのコマンド ボタンがあり、プロジェクトとワークスペースの親ストリームが近くなるよう (あるいは完全に同じになるよう) 同期処理を行う AccuRev コマンドを呼び出すことができます。

更新 のコミット

更新

[受信変更の更新] ウィンドウが開き、**マージ**、**Backed バージョンに戻す**、および **更新** コマンドを実行して変更をプロジェクトに取り込むことができます。



(overlap) ステータスのアイテムは、**マージ** または **Backed バージョンに戻す** コマンドで処理できます。**(stale)** ステータスのアイテムには、**更新** コマンドだけが実行できます。

ウィンドウ下部の [更新] ボタンをクリックすると、一連の AccuRev コマンドが呼び出され、指定した操作が実行されます。

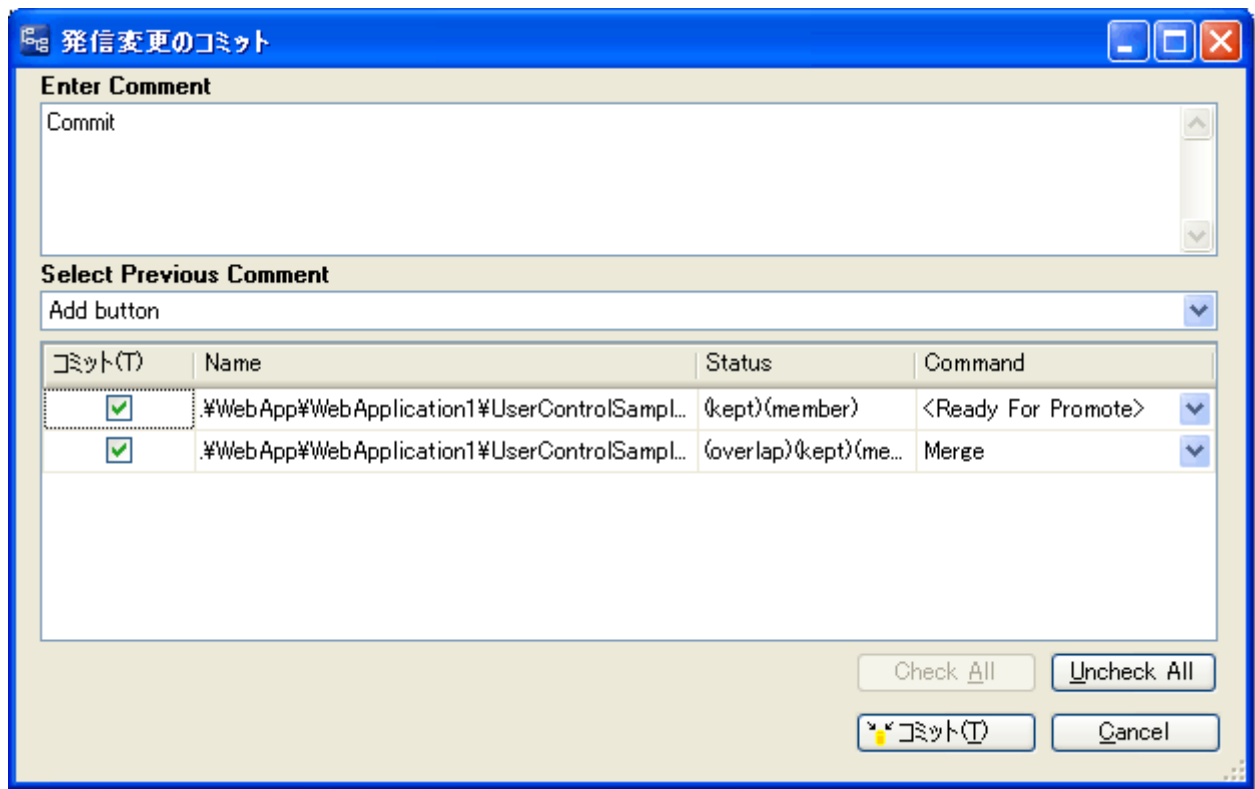
注意: **更新** コマンドは、個々の要素ではなく、ワークスペース全体に適用されます。従って、更新コマンド実行する際に、処理対象のアイテムのチェックボックスをオフにしても、効果はありません。

コミット

[発信変更のコミット] ウィンドウが開き、**デポに追加**、**マージ**、および **プロモート** コマンドを実行して変更をリポジトリに送ることができます (または、**Backed バージョンに戻す** および **最新のバージョンに戻す** コマンドを使って変更を「元に戻す」こともできます)。

注意: **(member)** ステータスのアイテムの [Command] カラムで [Keep] を指定すると、**キー** の後に **プロモート** が実行されます。

ウィンドウ下部の [コミット] ボタンをクリックすると、一連の AccuRev コマンドが呼び出され、指定した操作が実行されます。

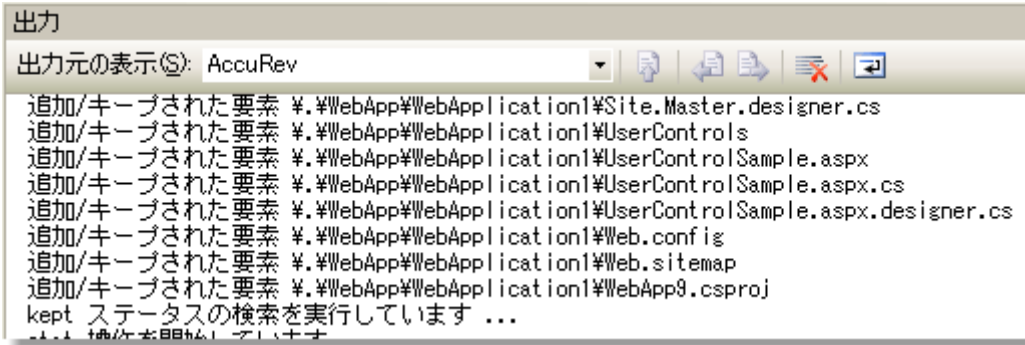


手動での同期

同期タブの [コミット] または [更新] ボタンをクリックする代わりに、特定のアイテムに対して AccuRev コマンドを実行することもできます。1 つ以上のアイテムを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示します。選択されたアイテムの少なくとも 1 つに適用できるコマンドだけが有効になっています。同期タブでは、ソリューション エクスプローラーから実行できるコマンドに加えて、**デフォルト** および **ソリューション エクスプローラーで場所を開く**、および **ファイルを開く** コマンドを実行できます。AccuRev コマンドの詳細については 18 ページの「**AccuRev コマンド リファレンス**」を参照してください。

出カウインドウの AccuRev ペイン

AccuRev コマンドの出力するメッセージは、Visual Studio の出カウインドウにある AccuRev ペインに送られます。



AccuRev コマンド リファレンス

ソリューション エクスプローラーで AccuRev コマンドを実行するには、次の操作を行います。

- 1つ以上のファイルまたはディレクトリを選択します。
- 右クリックしてコンテキストメニューを表示し、**[AccuRev]** サブメニューのコマンドをクリックします。

または、AccuRev ツールバーのコマンド ボタンをクリックします。

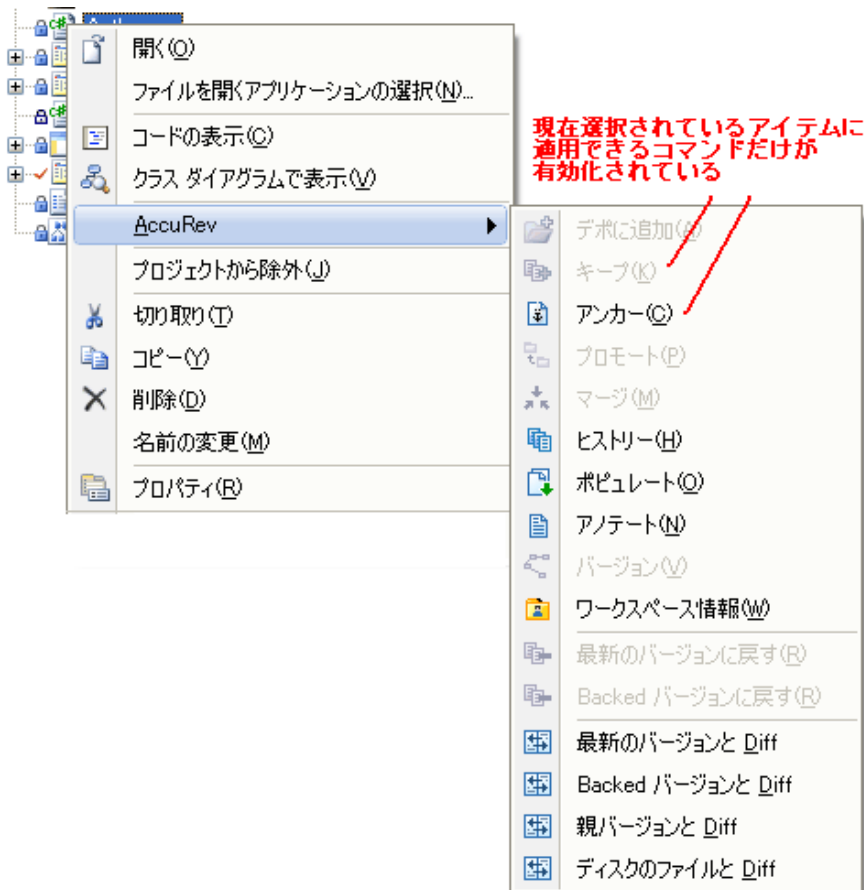
AccuRev ウィンドウなどの他の場所では、AccuRev コマンドは選択対象のコンテキストメニューの最上位に表示されます。

ファイルおよびディレクトリを操作するコマンドは、

現在選択されているアイテムのうち1つ以上に対して適用可能な場合にだけ有効化されます。**ヒストリー**などの一部のコマンドは、単一のアイテムが選択されている場合にだけ有効化されます。

コマンドが実行できるかの判断では、プロジェクトはアイテムの階層によって構成されることも考慮されます。あるアイテムに対してコマンドを実行すると、アイテムのサブ階層も処理対象になる場合があります。以下はそのような例です。

- ディレクトリに対して**キープ**コマンドを実行すると、ディレクトリ内のファイルが処理対象になります。**キープ**の対象になるファイルがない場合、コマンドは無効化されています。
- プロジェクトまたはソリューションに対して**キープ**コマンドを実行すると、プロジェクトまたはソリューションのすべての **(modified)** ステータスの要素に対して簡単にコマンドを実行できます。
- MainForm.vb** ファイルに対して**キープ** コマンドを実行すると、サブアイテムの処理対象になります。フォームデザイン ファイル **MainForm.designer.vb** およびリソース ファイル **MainForm.resx** もキープされます。



以下のセクションでは、Visual Studio 内で実行可能な AccuRev コマンドについて説明します。

- 19 ページの「[ファイルおよびディレクトリを操作するコマンド](#)」では、毎日の業務で通常使用するほとんどのコマンドについて説明します。これらのコマンドは、ソリューション エクスプローラーのほか、AccuRev ウィンドウの[検索タブ](#)および[同期タブ](#)から実行できます。
- 26 ページの「[ヒストリー タブで利用できるコマンド](#)」では、要素の過去のバージョンを操作するいくつかのコマンドについて説明します。
- 28 ページの「[AccuRev メニューから実行できるコマンド](#)」では、個々のファイルやディレクトリ以外のものを操作するコマンドについて説明します。
- 29 ページの「[AccuRev コマンドの自動呼び出し](#)」では、AccuRev コマンドを自動実行する Visual Studio 操作について説明します。

ファイルおよびディレクトリを操作するコマンド

以下のコマンドは、Visual Studio プロジェクトまたはソリューション内のファイルまたはディレクトリを操作します。大部分はソリューション エクスプローラーから実行可能であり、AccuRev ウィンドウの[検索タブ](#)および[同期タブ](#)からも実行できます。

デポに追加

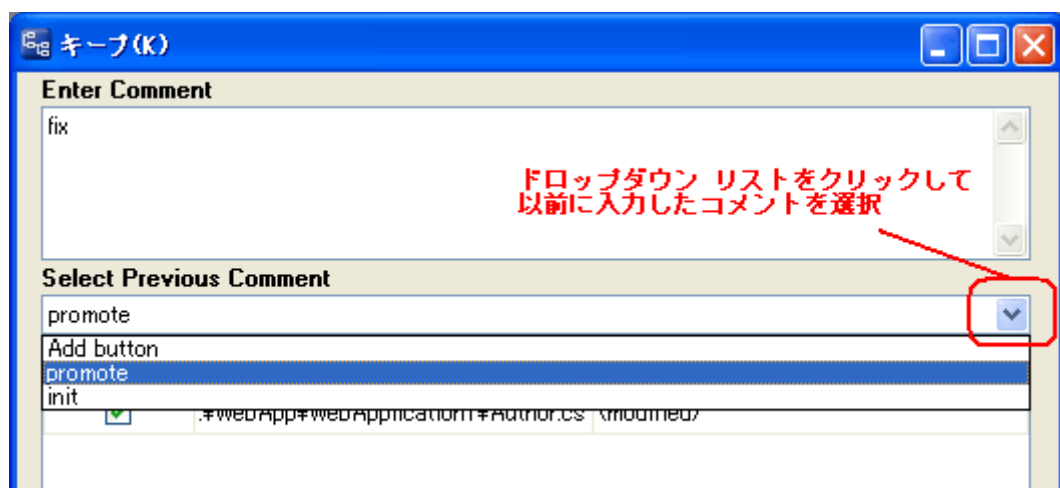
選択されたアイテムを AccuRev によってバージョン管理される[要素](#)に変換します。必要に応じて、ファイルの親ディレクトリも変換されます。[キープ](#) コマンド実行時と同様にコメントの入力を求められます。

このコマンドは、まだ AccuRev によってバージョン管理されていないアイテム — つまり、AccuRev ステータスが **(external)** のアイテムにだけ有効です。

キープ

1 つ以上の要素に対して行った変更を「プライベートな」バージョンとして AccuRev リポジトリに保存します。これらのバージョンはユーザーのワークスペース内でだけ参照できます — 親ストリームや他のユーザーのワークスペースには表示されません。バージョンを公開するには、[プロモート](#) コマンドを実行し、[キープ](#) によって作成されたバージョンを親ストリームに送信します。

コメントを入力するよう求められます。コメントは複数行にわたって入力できます。現在の Visual Studio セッションのほか、以前のセッションで[デポに追加](#)、[プロモート](#)、または[デフランク](#) コマンドを実行したときに入力したコメントを再利用できます。



以前のコメントを選択してから修正して、現在のコマンドのコメントとしてサブミットできます。

アンカー

選択されたファイルをワークスペースでアクティベートし、ワークスペースのデフォルトグループに追加します。アンカー コマンドを実行すると、以下のことが保証されます。

- ファイルは読み込み専用ではない。
- ファイルは更新 コマンドによって上書きされない。

排他ファイル ロックまたはアンカーが必要なワークスペース機能を利用している場合、ファイルの初期状態は読み込み専用です。この場合、ファイルを編集する前にアンカー コマンドを実行します。または、ファイルを保存する前に AccuBridge for Visual Studio PE によって自動的にアンカー コマンドが呼び出されます。

プロモート

1 つ以上のファイル要素の「プライベートな」バージョンを「パブリックな」バージョンに変換します。ワークスペースでキーブ コマンドによって作成されたバージョンを、開発チームの他のメンバーと共有する親ストリームに送ります。キーブ コマンドの場合と同様に、コメントの入力を求められます。

選択されたファイルの中に最後にキーブした後に変更された — そのためステータスが **(modified)** である — ものがある場合、プロモート コマンドはまず変更されたファイルを キープし、選択されたファイルをすべて (**kept**) ステータスにしてからプロモートします。

変更パッケージ トリガー

現在のデポの課題データベースに変更パッケージ トリガーが定義されている場合、[Select Issue Number(s)] ダイアログが開き、AccuWork の課題レコードのセットが表示されます (変更パッケージ トリガーの定義にはクエリーが含まれており、表示する課題レコードを動的に選択します)。



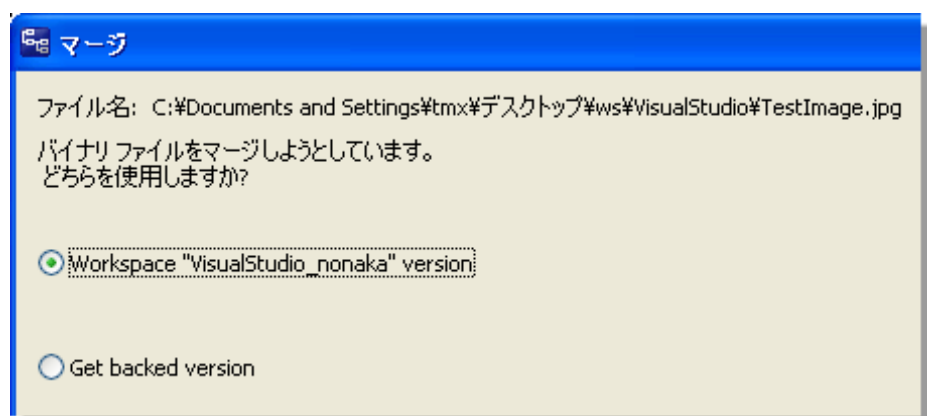
課題データベースの構成によっては、課題レコードの表示をサブセットだけに制限するドロップダウンリストが表示される場合もあります。たとえば、**Assigned To** の値が **derek** のサブセットだけを表示することができます。

ポイント & クリック操作で 1 つ以上の課題レコードを選択するか、入力フィールドに課題番号を入力する必要があります。複数の課題番号を入力するには、スペースを区切り文字とします。**[OK]** をクリックすると、プロモートされるバージョンは選択された課題レコードの変更パッケージに追加されます。

マージ

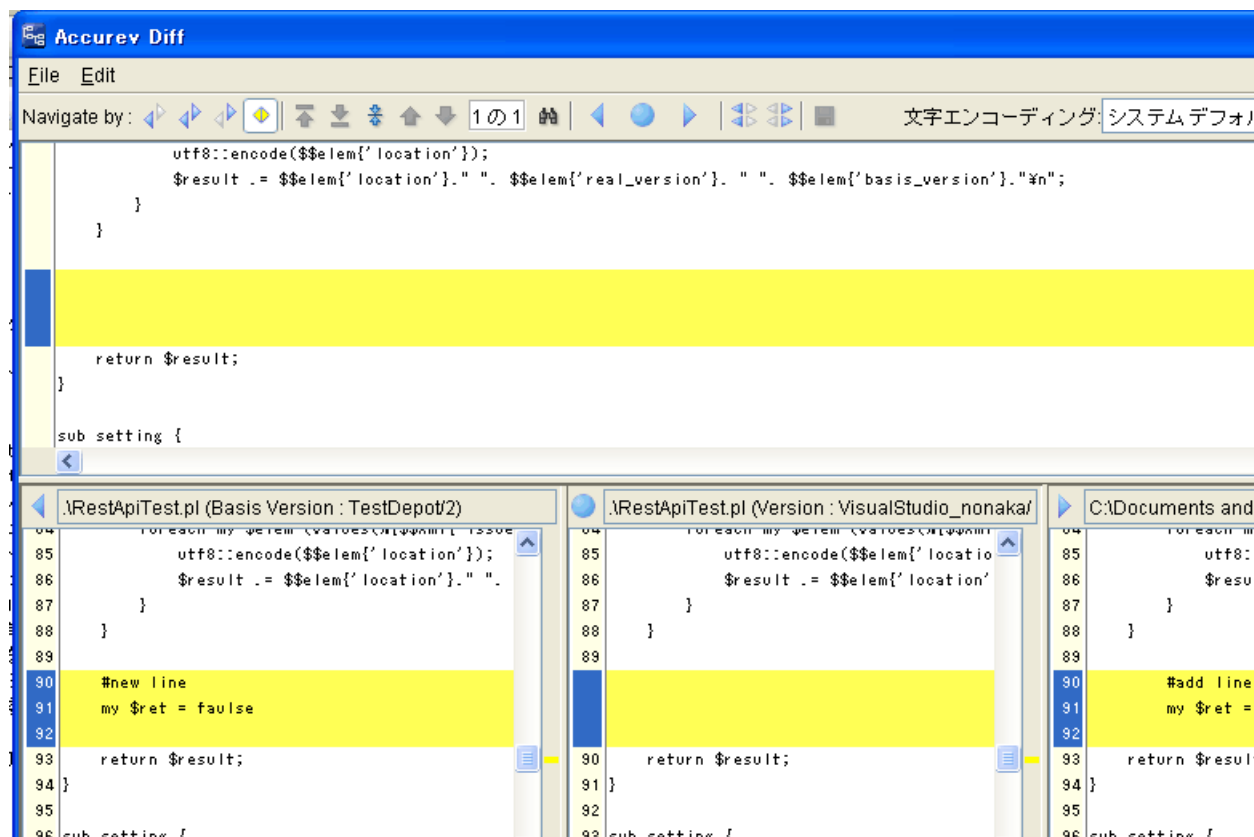
要素の 2 つのバージョンを合成し、新しいバージョンをワークスペースに作成します (**キープ** トランザクションとして記録されます)。通常、他のメンバーが同じ要素を変更し、先に共通の親ストリームに変更を **プロモート** したときにマージが必要になります (このコマンドは他のソースコード管理ツールの用語では「Resolve」に相当します)。

要素タイプが **binary** の場合、マージは、自分のバージョンか親ストリームのバージョンのどちらかを選択することになります。AccuRev はバイナリファイルのコンテンツの合成をサポートしていません。



要素タイプが **text** の場合、バージョンのコンテンツは外部プログラムによってマージされます。デフォルトでは、3 者マージアルゴリズムを備えた AccuRev 独自のマージ ツールが使用されます。

[ツール] メニューの [オプション] から他のマージ ツールを構成できます。詳細については 7 ページの「**AccuRev オプションの設定**」を参照してください。



コンテンツ レベルのマージのほかに、「名前空間」レベルのマージが必要になる場合があります。ユーザーの AccuRev ワークスペース /Visual Studio プロジェクトと親ストリームのバージョンの両方でファイルまたはディレクトリの名前が変更されたり移動されたり

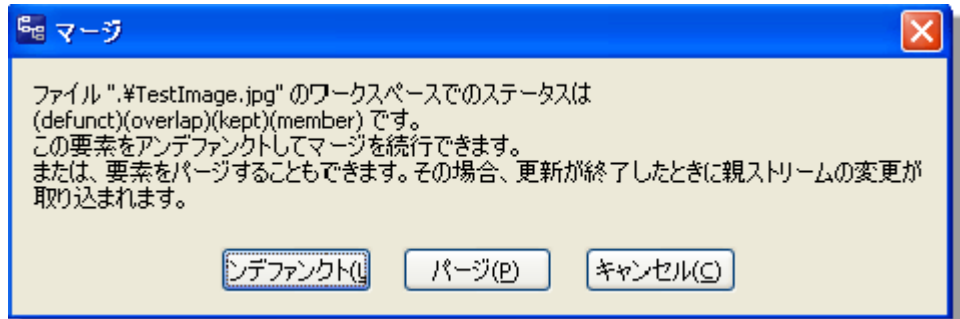
した場合に、名前空間レベルのマージが必要になります。マージ コマンドを実行すると、どちらの名前空間の変更を採用するかを選択できます。また、どちらの変更も却下して要素の共通の先祖バージョンの「元の」名前を使用することもできます。

注意：名前空間レベルのマージで自分のワークスペースの名前を破棄することを選択した場合、プロジェクト ファイルを更新して名前の変更を反映する必要があります。多くの場合、



ワークスペースを**更新**すると、名前空間の変更を含む新しいバージョンのプロジェクトファイルをワークスペースに取り込むことができます。この方法で変更が反映されない場合、Visual Studio の**削除** コマンドを実行してプロジェクト ファイルから古い名前を削除してから **[追加]>[既存の項目]** コマンドで名前が変更されたアイテムをプロジェクトに取り込みます。

もう 1 つの特殊なケースは、ワークスペースでアイテムが **(defunct)** ステータスの場合に発生します (Visual Studio で**削除** コマンドを実行すると、AccuRev ステータスが **デファンクト**



になります)。この場合、ダイアログが表示され、アイテムを復元(「アンデファンクト」)できます。この機能により、削除を取り消して、代わりに親ストリームのバージョンの変更を取り込むことができます。**[パーズ]** を選択すると、**Backed バージョンに戻す** コマンドが実行され、**削除 / デファンクト** を含むアイテムへのすべての変更が破棄されます。

本当にアイテムをプロジェクトから削除したい場合は、次の操作を行います。

1. ダイアログで **[パーズ]** をクリックします。
2. ワークスペースを**更新**します。
3. 再びアイテムを**削除**し、AccuBridge for Visual Studio PE で **デファンクト**します。
4. **(defunct)** ステータスのアイテムを親ストリームに**プロモート**します。

ヒストリー

選択された要素の各バージョンを作成した AccuRev トランザクションを AccuRev ウィンドウのヒストリー タブに表示します。13 ページの「**ヒストリー タブ**」を参照してください。

ソリューション エクスプローラーで場所を開く

(AccuRev ウィンドウでのみ有効) 選択されたアイテムをソリューション エクスプローラー ペインでハイライト表示し、アイテムが表示されていない場合は、プロジェクトの階層を展開してアイテムを表示します。

ファイルを開く

(AccuRev ウィンドウでのみ有効) 選択されたファイルを Visual Studio のタブ付きドキュメント ウィンドウで開きます。

ポピュレート

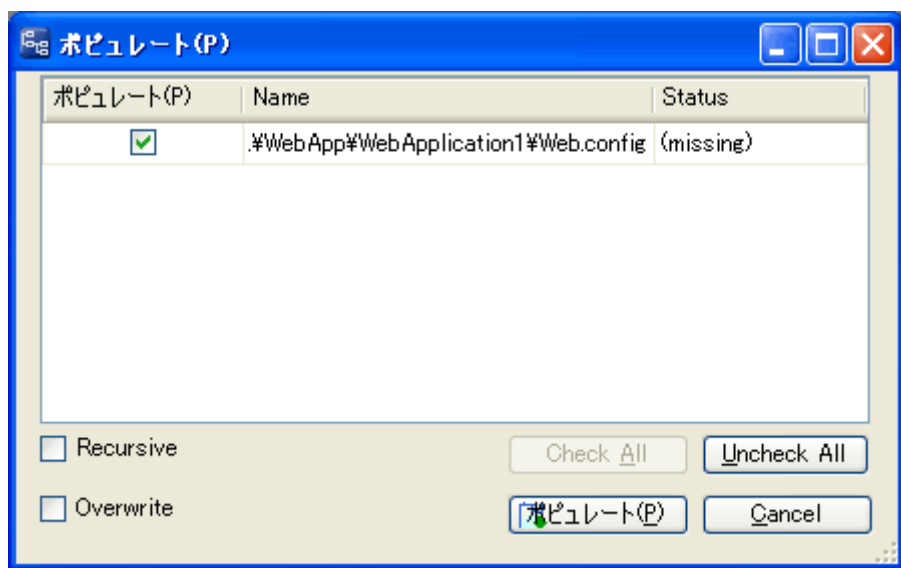
(missing) ステータスのファイルをプロジェクトに復元します。(missing) ステータスのファイルを探すには、Missing 要素検索を利用します。詳細については 11 ページの「[検索タブ](#)」を参照してください。

ポピュレートコマンドは、現在 (AccuRev リポジトリの) ワークスペース ストリームにあるバージョンをワークスペースにコピーします。詳細については、『AccuRev テクニカル ノート』の「ポピュレートと更新の違い」を参照してください。

ポピュレート コマンドを実行すると、ポピュレート対象のファイルおよびディレクトリの一覧を表示するダイアログが開きます。[ポピュレート] カラムのチェックボックスを使用して一覧のアイテムのうちポピュレートするものを選択できます。

ダイアログの下部には、さらに 2 つのオプションがあります。

- Recursive – 一覧の各ディレクトリ アイテムについて、ディレクトリとその下のすべての要素に対してポピュレートコマンドを実行します。
- Overwrite – 一覧の各ファイル アイテムについて、現在ワークスペースにあるファイル (もしあれば) を置換します。チェックボックスがオフの場合、ファイルは上書きされません。



アノテート

選択されたファイルの読み取り専用コピーを表示し、各行の先頭に次の 1 つ以上の注釈を表示します：行を作成したユーザー、行が追加または最後に変更されたトランザクション、トランザクションのタイムスタンプ、トランザクションで作成されたバージョンのバージョン ID。また、ワークスペースで変更されているが、まだキープまたはプロモートされていない行も注釈付きで表示されます。

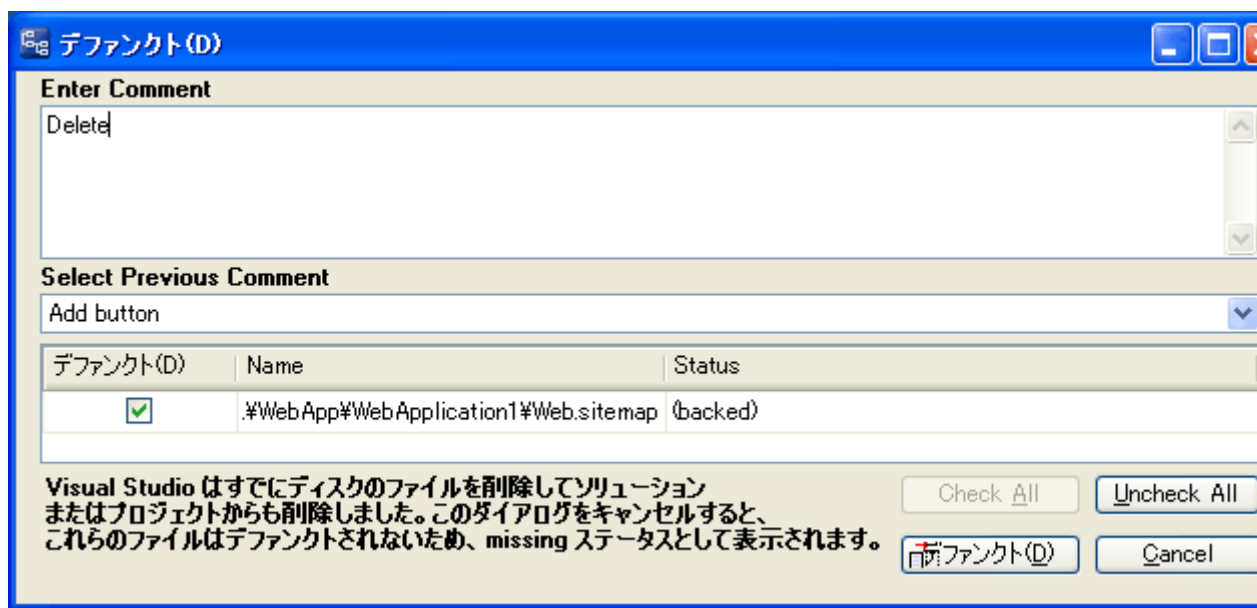
デファンクト

(**検索タブ** および **同期タブ** で有効です。ソリューション エクスプローラーでは無効) 選択されたファイルをディスクから削除し、AccuRev ワークスペースで (**defunct**) ステータスでマークします。**キープ** コマンドと同様に、コメントの入力を求められます。

デファンクト ファイルはすでにディスクには存在しませんが、AccuRev の Defunct 要素または Default Group 要素検索の結果には表示されます。要素を親ストリームに**プロモート**すると、AccuRev ワークスペースから完全に消えます。

注意：ディレクトリ要素もデファンクトできますが、影響はファイルの場合よりはるかに大きくなります。ディレクトリをデファンクトする前に、『AccuRev CLI ユーザーズ ガイド』を参照して **defunct** コマンドの説明を確認してください。

Visual Studio の削除コマンドを実行すると、プロジェクト (およびローカル ディスク領域) からファイルが削除され、自動的に **デファンクト** も実行されます。



必ず [**デファンクト**] をクリックして Visual Studio プロジェクトと AccuRev リポジトリの同期を伊維持してください。[**デファンクト**] をクリックしない場合、要素はワークスペースで (**missing**) ステータスになります。

最新のバージョンに戻す

Backed バージョンに戻す コマンドに似ていますが、最後に**キープ** コマンドで作成したプライベート バージョンまでしかロールバックしません。このコマンドは、ファイルを編集して [**ファイル**] メニューの [**保存**] コマンドで保存した後、変更を破棄したい場合に便利です。

Backed バージョンに戻す

ファイルに加えた変更を破棄します。最後に**更新** コマンドを実行した時点で親ストリームに存在していたバージョンを復元します (ただし、最後の**更新** より後に要素の 1 つ以上のバージョ

ンを親ストリームにプロモートしていた場合は、最後にプロモートしたバージョンが復元されます)。

最新のバージョンと Diff

(テキスト ファイルのみ、単一のファイル選択時のみ) ワークスペースのファイルと最後に **キープ** コマンドで作成されたバージョンを比較します。最後に **キープ** した後に何を変更したかを確認できます。

Backed バージョンと Diff

(テキスト ファイルのみ、単一のファイル選択時のみ) ワークスペースのファイルと親ストリームの現在のバージョンを比較します。

親バージョンと Diff

(テキスト ファイルのみ、単一のファイル選択時のみ) ワークスペースのファイルと以下の先祖バージョンのうち最も新しいものを比較します。

- 別のワークスペースで作成され、**更新** コマンドで自分のワークスペースに取り込まれたバージョン
 - 自分が作成して親ストリームに **プロモート** したバージョン
- ファイルに最近加えた変更を確認できます。

ディスクのファイルと Diff

(テキスト ファイルのみ、単一のファイル選択時のみ) ワークスペースのファイルと、標準の [開く] ダイアログで選択した別のファイルを比較します。

ヒストリー タブで利用できるコマンド

以下のコマンドは、AccuRev ウィンドウの **ヒストリー タブ** のコンテキスト メニューからだけ実行できます。

ワークスペースと Diff

選択されたトランザクションによって作成されたバージョンとプロジェクトに現在あるファイルを比較します。

バージョンと Diff

2 つのトランザクションによって作成されたバージョンを比較します。

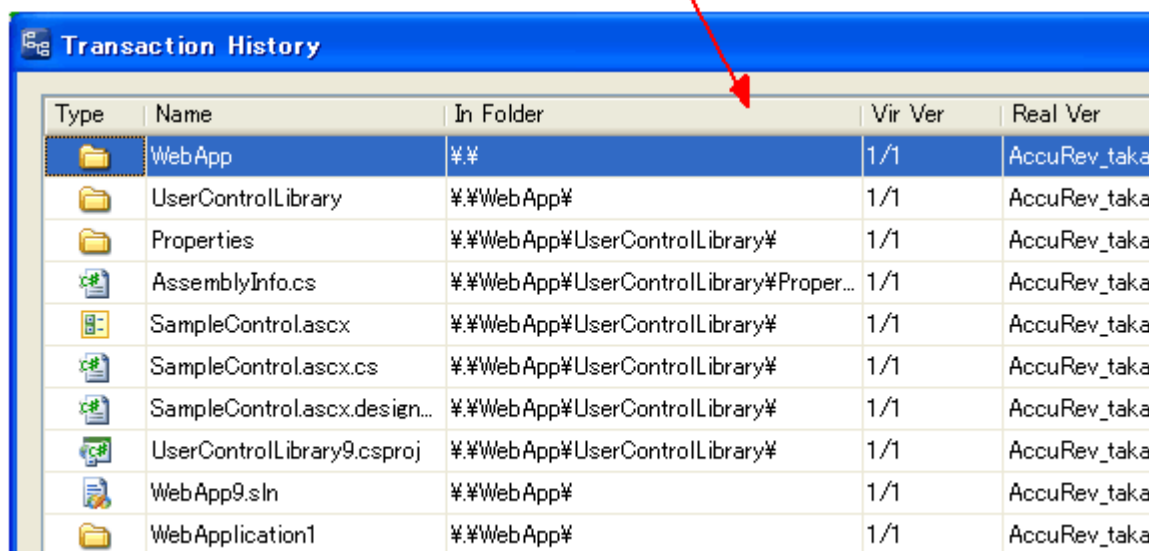
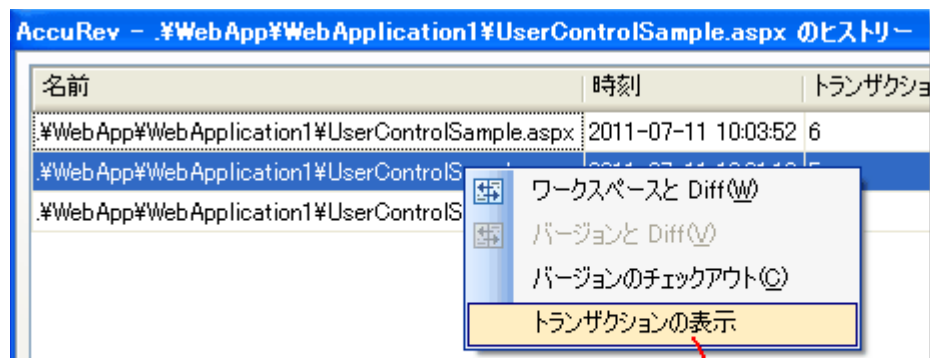
バージョンのチェックアウト

AccuRev チェックアウト (**co**) コマンドを実行し、選択されたバージョンでワークスペースのバージョンを置換します。**アンカー** コマンドに似ていますが、ワークスペースの現在のバージョンではなく、過去のバージョンをアクティブにします。

要素はワークスペースで現在非アクティブでなければなりません — つまり、**(backed)** ステータスでなければなりません。

トランザクションの表示

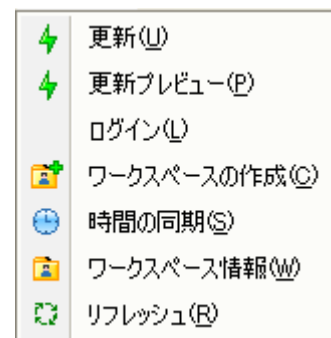
トランザクション ヒストリー ウィンドウを開き、選択されたトランザクションの完全な内容を表示します。一部の種類のトランザクションは、複数の要素の新しいバージョンを作成する場合があります、



AccuRev メニューから実行できるコマンド

以下のコマンドは、Visual Studio メインメニューの [AccuRev] メニューの下にあります。[ファイル]メニューの [AccuRev] から実行できます。

AccuRev メニューは、ソリューションエクスプローラーにアクティブなソリューションがある場合にだけ表示されます。ソリューションには AccuRev によってソース管理されているプロジェクトがなくてもかまいません。



更新

現在のソリューション内のプロジェクトを含むすべてのワークスペースに対して更新コマンドを実行します。更新コマンドは、ワークスペースの親ストリームからワークスペースにバージョンをコピーします。これによって、他のメンバーが親ストリームにプロモートした変更を自分のワークスペースに取り込むことができます。

更新プレビュー

実際に更新を実行した場合に行われる変更を出力ウィンドウの AccuRev ペインに一覧表示します。

ログイン

accurev_login ユーザー認証スキーマを使用するよう設定されている場合、Visual Studio 内で AccuRev 操作を実行するには、あらかじめログインコマンドを実行しておく必要があります。

トラディショナルユーザー認証スキーマを使用するよう構成されている場合は、このコマンドを実行しないでください。詳細については4ページの「[ユーザーの認証](#)」を参照してください。



ワークスペースの作成

AccuRev ワークスペースの作成をガイドするウィザードを表示します。5ページの「[AccuRev ワークスペースの作成](#)」を参照してください。

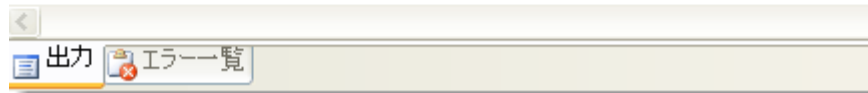
時間の同期

マシンのシステムクロックを調整して AccuRev Server マシンのクロックと一致させます。このコマンドを実行するには、OS レベルで管理者レベルの権限が必要です。

ワークスペース情報

現在の AccuRev 作業環境に関する情報を出力ウィンドウの AccuRev ペインに送ります。

```
-----  
ワークスペース情報 - AccuRev_takahashi  
-----  
プリンシパル: takahashi  
ホスト: tmx  
client_ver: 121  
サーバー名: tmx  
ポート: 5050  
DB のエンコーディング: Unicode  
ACCUREV_BIN: C:/Program Files/AccuRev/bin  
server_ver: 121  
クライアント時刻: 2011/07/11 14:02:19 東京 (標準時) (1310360539)  
サーバー時刻: 2011/07/11 14:02:19 東京 (標準時) (1310360539)  
デポ: depot  
ワークスペース/参照: AccuRev_takahashi  
親: depot  
トップ: C:/Documents and Settings/All Users/AccuRev
```



リフレッシュ

AccuRev Server に接続してソリューション内のすべてのアイテムのステータスを更新します。Visual Studio 以外のプロセスで開発ファイルを変更した場合にこのコマンドを使用します。

AccuRev コマンドの自動呼び出し

プロジェクトの「名前空間」を変更する Visual Studio 操作を実行した場合、Visual Studio プロジェクトの名前空間と AccuRev リポジトリの名前空間の同期が維持されるよう、自動的に AccuRev コマンドが実行されます。

名前の変更

要素に対して**名前の変更**コマンドを実行した場合、対応する AccuRev の**名前の変更** (または**移動**) コマンドが自動的に呼び出されます。変更は出力ウィンドウの AccuRev ペインにログ表示されます。

```
Starting rename operation on '.\ValidateText\Documentation\ReadMe.htm' ...  
Moving .\ValidateText\Documentation\ReadMe.htm to  
        .\ValidateText\Documentation\ReadMeFirst.htm  
Operation completed successfully
```

削除

要素に対して**削除**コマンドを実行した場合、対応する AccuRev の**デファクト** コマンドが自動的に呼び出されます。**[デファクト]** ダイアログで必ずデファクトを続行してください。キャンセルしてはいけません。キャンセルすると、要素のステータスが **(missing)** になります。

要素の移動

Shift キーを押しながら要素を 1 つのディレクトリから別のディレクトリ (別のプロジェクトのディレクトリでもかまいません) にドラッグすると、要素を移動できます。切り取りおよび貼り付けコマンドを使用して要素を移動することもできます。このような操作は、AccuBridge for Visual Studio PE によって以下のように処理されます。

- 移動先が同じ AccuRev ワークスペースの場合 (同じ Visual Studio 内でもかまいません)、AccuRev の **名前の変更** (または **move**) コマンドが自動的に呼び出されます (C++ プロジェクトでは、コピー操作はファイル システム オブジェクトを作成するのではなく、プロジェクト ファイル内に参照を作成するだけであることに注意してください)。
- 移動先が他の AccuRev ワークスペースである場合、AccuRev の **名前の変更** コマンドは失敗します。

注意: Shift キーを押さずに「単純な」ドラッグ & ドロップ操作を行った場合、コピーと貼り付けを続けて実行した場合と同じように、コピーされます。この場合、AccuRev コマンドは呼び出されません。アイテムを AccuRev ワークスペース内にコピーした場合、新しくコピーされたアイテムは (**external**) ステータスになります。

AccuRev の使用モデル

AccuRev の柔軟性は、さまざまな開発シナリオでの使用を容易にします。しかし、他のあらゆるソフトウェアシステムと同様に、AccuRev にもその設計者の心の中で首位を占めた使用モデルがあります。このセクションでは最も一般的な使用モデルについて説明します。

AccuRev はソフトウェア構成管理 (SCM) システムであり、一連のファイルを開発しているチーム (ユーザー) での使用を目的として設計されたものです。対象となるファイルは、任意のプログラミング言語のソースコード、画像、技術文書と営業資料、音声/ビデオトラックなど多岐にわたります。ファイルおよびファイルがあるディレクトリは、「バージョン管理」または「ソース管理」されていると言われます。AccuRev はリンクもバージョン管理します。バージョン管理されたオブジェクトは「要素」と呼ばれます。

ワークスペースとストリーム

生産性を最大限に高めるために、チームのユーザーは互いに独立して作業できなければなりません。その期間は数時間や数日のこともあれば、何週間に及ぶこともあります。したがって、ユーザーはバージョン管理されたすべての要素のプライベートコピーを各自で所有します。プライベートコピーはユーザー個人のマシン (あるいは共有マシン上のユーザーのプライベート領域) に格納され、そのディレクトリツリーは「ワークスペース」と呼ばれます。3人のチームにおける独立したワークスペースを次のように図で表すことができます。



上記のワークスペース名は「任意のワークスペース名の最後に個々のユーザー名を付ける」という規則を使用しています。AccuRev はこの名前付け規則を推奨します。この例では、**talon_dvt** は「Talon という製品の開発作業」という意味です。そして **john**、**mary**、および **derek** はユーザーの OS のログイン名です。

AccuRev の観点では、これらのワークスペースでの開発作業とは「同期を取る」と「同期から外れる」の間を継続的に行き来することです。

- 初期状態では、ワークスペースは完全に同期化されています。すなわち、各ユーザーはバージョン管理された要素の同じコピーを所有します。
- 各ユーザーが要素に変更を加えるうちに、ワークスペースの同期は失われます。

AccuRev は CVS と同じ同期化パラダイムを利用します。プライベートエリア間で (つまりユーザーのワークスペース間で) 直接データを転送するのではなく、2段階のステップでデータ転送を行います。

1. あるユーザーが自分の変更をパブリックにして、同じチームのメンバー全員が利用できるようにします。このステップを「プロモート」と呼びます (CVS では「コミット」と呼びます)。

2. 必要なときに他のメンバーはパブリックな変更を自分のワークスペースに取得します。このステップを「更新」と呼びます。

[同期化] タブを使って、プロモートと更新の両方の作業を行うことができます。14 ページの「同期タブ」を参照してください。

1 番目のステップのプロモートは、

ストリームと呼ばれるパブリックなデータ領域にユーザーの変更を送ります。AccuRev には何種類かのストリームがあり、この場合のストリームは「親ストリーム」と呼ばれます。

2 番目のステップの更新は、他のユーザーの変更を親ストリームから自分の AccuRev ワークスペースに取得します。

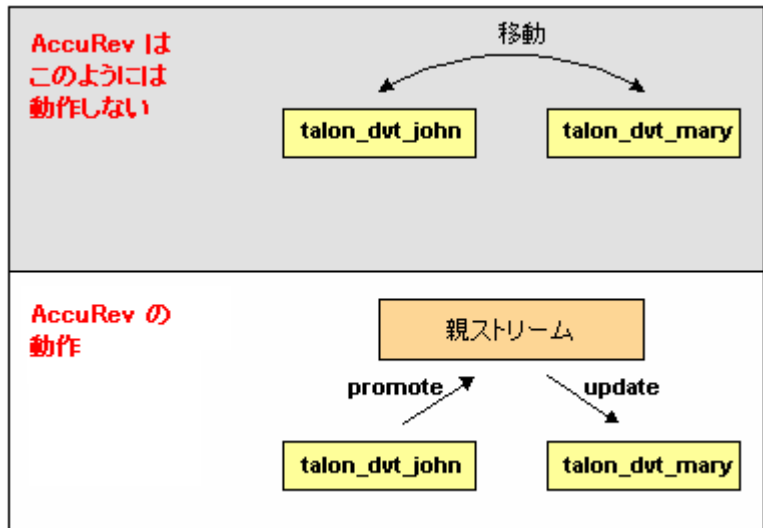
AccuRev では変更をパブリックにする前に、自分のワークスペースに要素の中間バージョンをいくつでも保存できます。そのような要素の「プライベート」バージョンはキープ操作によって作成されます。

AccuRev 要素のステータス

AccuRev 要素 (バージョン管理されたファイル、ディレクトリ、リンク) はそれぞれステータスを持ち、ステータスはステータス インジケーターによって表されます。要素のステータスは、「この要素について、自分のワークスペースのバージョンと AccuRev リポジトリのバージョンとの間にどんな関係があるのか」という疑問に回答します。AccuRev には多くのステータス インジケーターがありますが、これは AccuRev が 2 箇所だけでなく 3 箇所で要素のステータスを追跡するためです。

- ワークスペース ツリー: ユーザー マシン上のディレクトリ ツリー。Visual Studio プロジェクトとしてアクセスします。
- ワークスペース ストリーム: AccuRev リポジトリ中の対応する領域。AccuRev リポジトリは、ユーザーが自分のワークスペースで (たとえば **Keep** コマンドで) 作成したプライベートバージョンを永久に保存します。
- 親ストリーム: AccuRev リポジトリ中のパブリックな領域。ユーザーおよび他のチームメンバーがアクセスします。

次に AccuRev 要素のステータス インジケーターについて説明します。



ワークスペース中の要素の存在

- **(defunct)** — Defunct コマンドによって、ワークスペース ストリームから削除する対象として要素がマークされています。
- **(external)** — ファイルまたはディレクトリはバージョン管理下にありません (ワークスペース ツリー中にありますが、ワークスペース ストリーム中にありません)。
- **(excluded)** — 包含 / 除外 機能を使って除外されたため、要素はワークスペース中に表示されません。AccuRev プラグインはこの機能のためのインターフェイスを提供していません。
- **(link)** — 要素は ファイルリンク または ディレクトリ リンク です。
- **(missing)** — この要素のバージョンはワークスペース中に「あるべき」なのですが、ありません。この状況が発生するのは、OS のコマンドを使って、バージョン管理されたファイルをワークスペース ツリーから削除した場合です。
- **(twin)** — 要素は、同じパス名に存在する、ワークスペース中の複数の要素の 1 つです。これらの要素のうち最大で 1 つにパス名によってアクセスできます。残りの要素は固有の 要素 ID によってアクセスできます。ただし、AccuRev プラグインでは要素 ID によるアクセスはできません。
- **(stranded)** — 要素はワークスペース中でアクティブですが、要素へのパス名が現在ありません。

ワークスペース中の要素に対する変更

- **(modified)** — 最近の **update** または **keep** の後、ワークスペースでファイルが変更されています。
- **(kept)** — 要素の新しいプライベートなバージョンを作成しましたが、まだバージョンを **Promote** してパブリックにしていません。
- **(member)** — **Keep** または **Anchor** を実行して要素の新しいプライベート バージョンを作成したため、ワークスペース中で要素は「アクティブ」です。

親ストリーム中のバージョンとの関係

- **(backed)** — 現在作業していない要素。すなわち、Visual Studio プロジェクト (ワークスペース ツリー)、ワークスペース ストリーム、および親ストリームにおいてバージョンはすべて同じということを示します。
- **(stale)** — ワークスペースの最後の **Update** の後に親ストリーム中のバージョンが変更されたため、要素を更新する必要があります。
- **(overlap)** — 親ストリームとワークスペースの両方で要素が変更されています。これは、親ストリームに変更をプロモートする前にマージが必要なことを示します。
- **(underlap)** — **(overlap)** に似ています。すなわち、親ストリームとワークスペースの両方で要素が変更されていますが、ワークスペース中の変更はすでに親ストリームにプロモートされている状態です。